

日本救急医学会 救急医1,000人アンケート

2024

集計報告

「救急医1,000人アンケート2024」は昨年10月1日より約1ヶ月間、日本救急医学会会員を対象に同学会救急科プログラム参加推進委員会が企画・実施したものである（協賛：へるす出版）。20～70歳代まで幅広い年代層に、救急科専門医・指導医資格取得動向、サブスペシャルティの保有状況や勤務実態を調査するとともに、仕事に対する思い、職場環境への要望など救急医療従事者の現場の声を聞いた。同様のアンケートは、過去に第44回日本救急医学会総会・学術集会企画として2016年に実施されており、そのときの結果は本誌2017年1月号および日本救急医学会ホームページ「救急医をめざす君へ」に掲載されている。今回の結果とあわせてご参照いただきたい。なお今回のアンケート結果についても、同サイトにおいて救急科プログラム参加推進委員会独自の分析も加えて掲載予定である（されている）。こちらもぜひご参照いただきたい。

本アンケートの概要は以下のとおりである。

企　　画：日本救急医学会救急科プログラム参加推進委員会

協　　賛：株式会社へるす出版

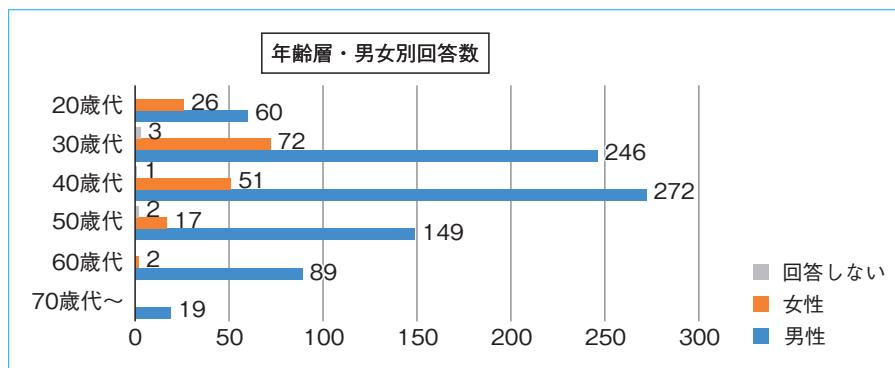
実施期間：2024年10月1日～2024年11月11日

実施方法：インターネットによる無記名アンケート方式

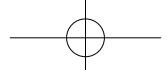
総回答数：1,009件

※設問によっては複数回答によるものがあり、回答数の合計が必ずしも本件数と合致しないことをご了承いただきたい。

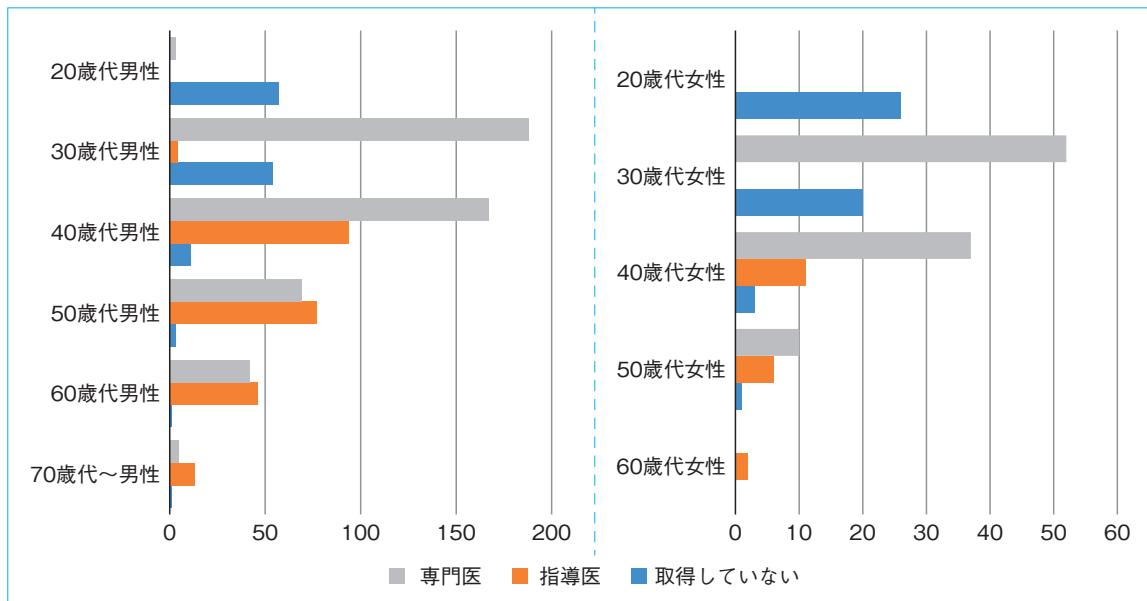
男女・年齢層構成：下記グラフを参照されたい。



男性は40歳代の回答者がもっと多く、女性は30歳代が多い。年代が上がるにつれ男女比が大きくなっている。

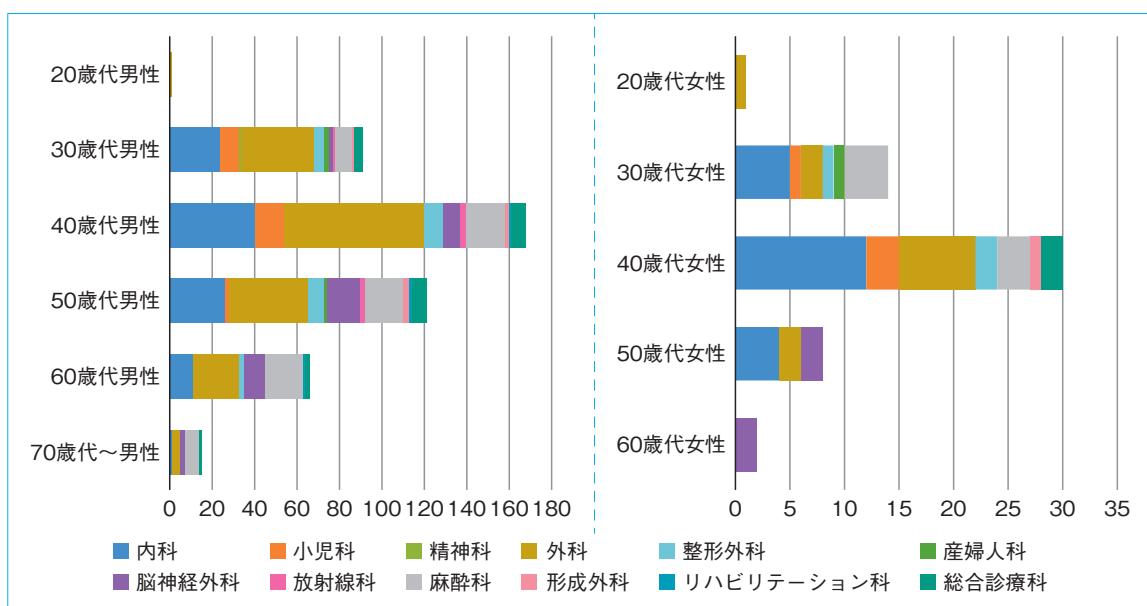


Q1 専門医/指導医資格の有無



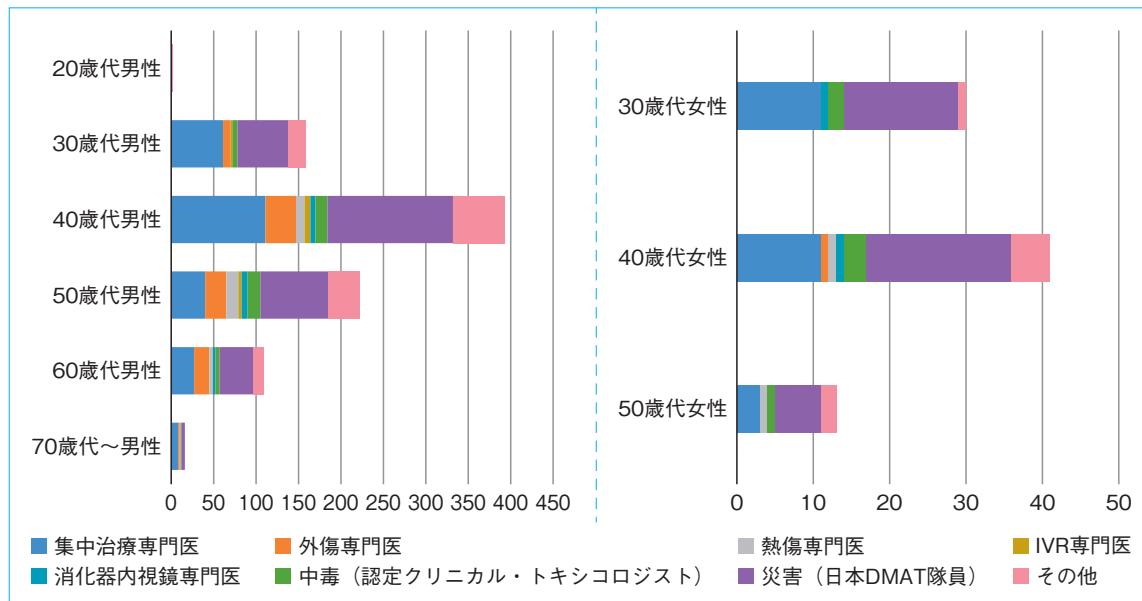
男女とも30歳代から専門医資格を、40歳代から指導医資格を取得する傾向にあった。

Q2 救急科以外に保有している専門医資格



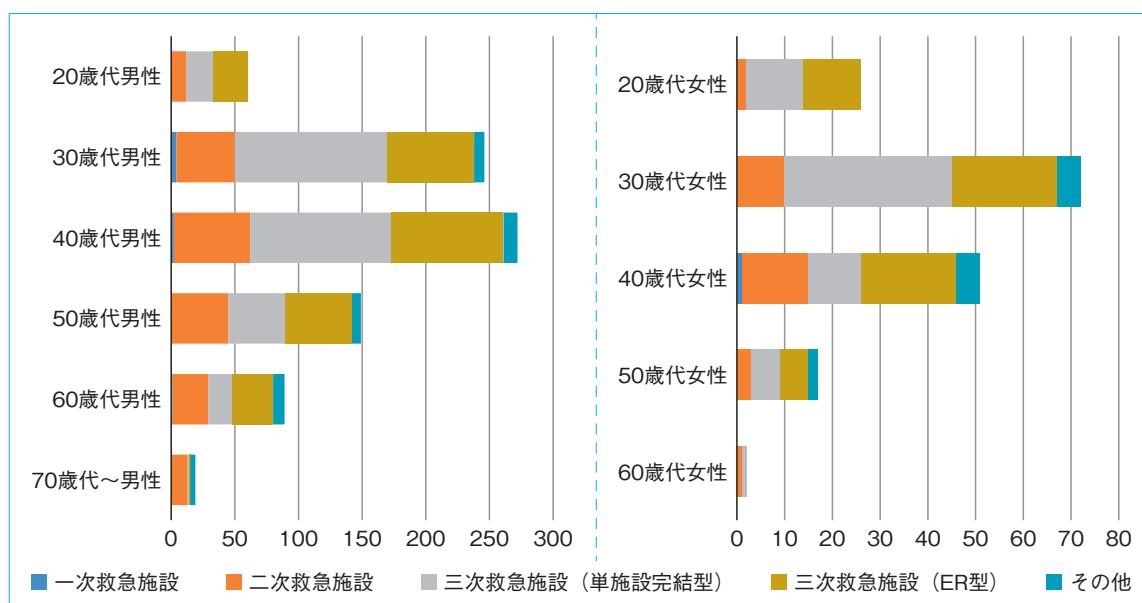
救急科以外で保有している専門医資格は、男性では外科（164名）がもっとも多く、次いで内科（102名）、麻酔科（69名）、脳神経外科（38名）の順であった。女性では内科（21名）がもっと多く、次いで外科（12名）、麻酔科（7名）、脳神経外科（4名）の順であった。

Q3 救急科以外に保有しているサブスペシャルティ（複数回答）



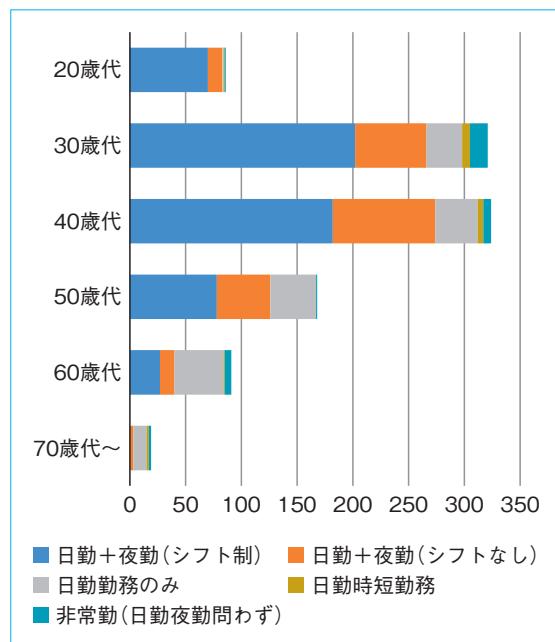
サブスペシャルティの取得状況は、男女とも集中治療専門医がもっとも多かった（男性247名、女性26名）。また、男性の約4割、女性の約1/4がDMAT隊員に登録していた。その他では男性は循環器専門医、脳卒中専門医、ACS認定外科医、感染症専門医などを複数名が取得していた。なお、本アンケートは日本専門医機構の認定するサブスペシャルティ以外のもとの回答に含めている。

Q4 現在の主な勤務施設



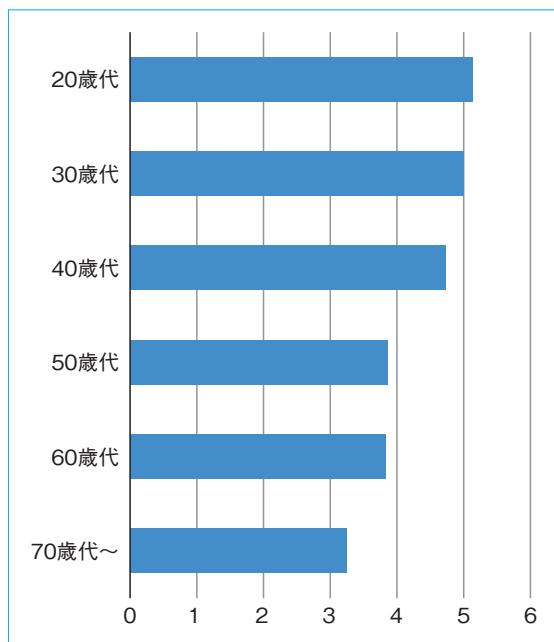
主な勤務施設は男女とも三次救急施設（単施設完結型）がもっとも多い結果であったが、40歳代では二次救急施設の割合多くなっている。

Q5 勤務形態について（男女混合）



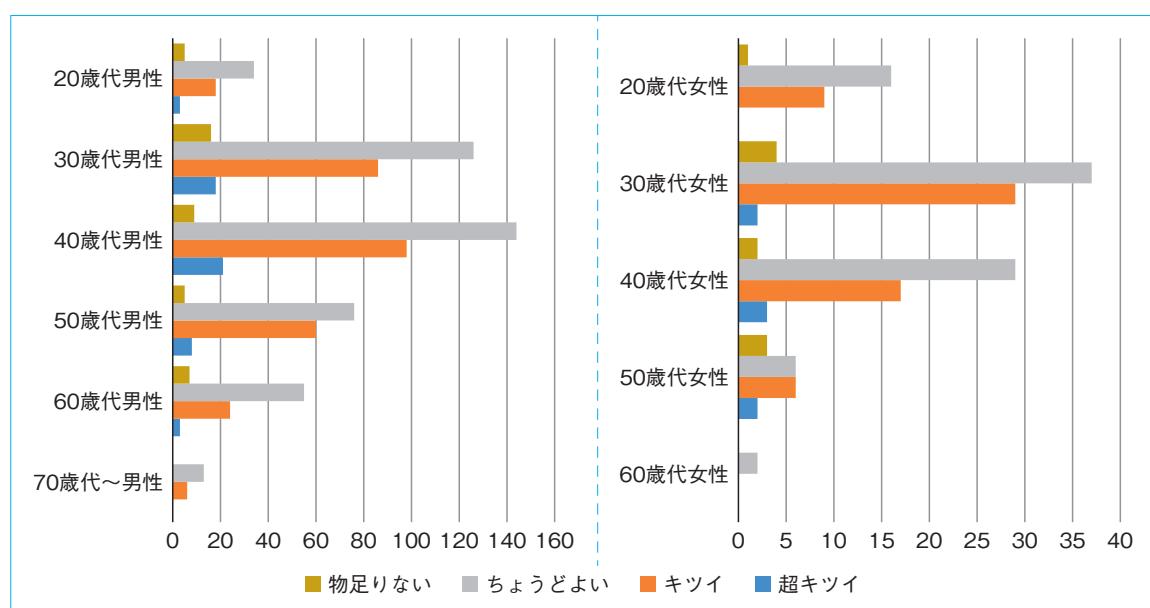
シフト制の日勤+夜勤がもっとも多い勤務形態であった。60歳代でも約4割が夜勤を行っていた。

Q6 1ヶ月あたりの平均夜勤/当直回数（男女混合）



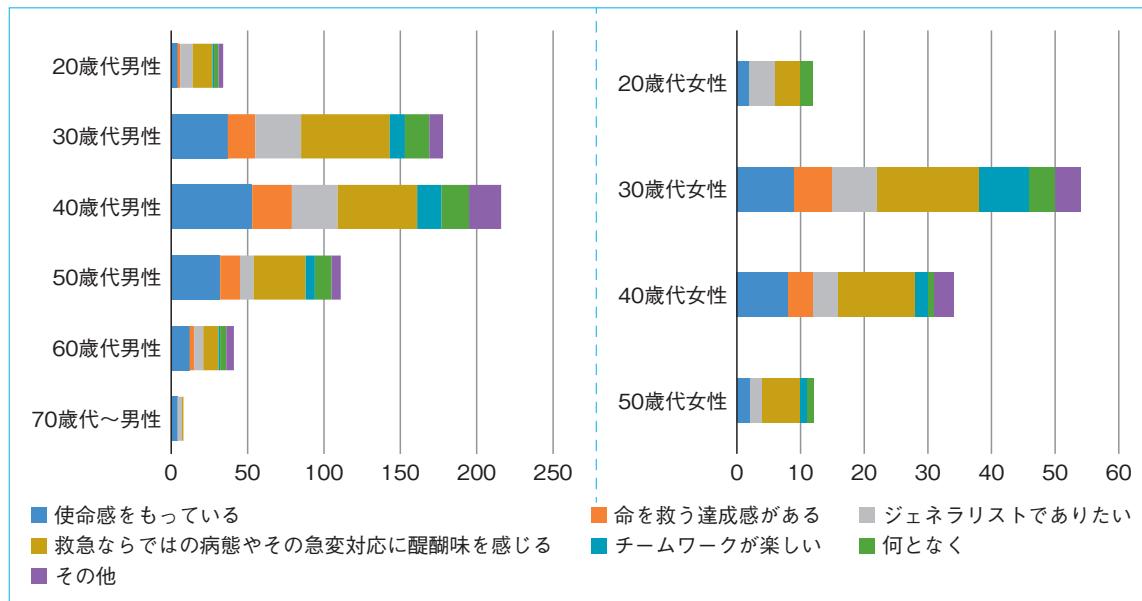
1ヶ月あたりの平均夜勤/当直回数は20歳代で5回以上、60歳代でも3回を超える結果であった。

Q7 仕事のキツさについて



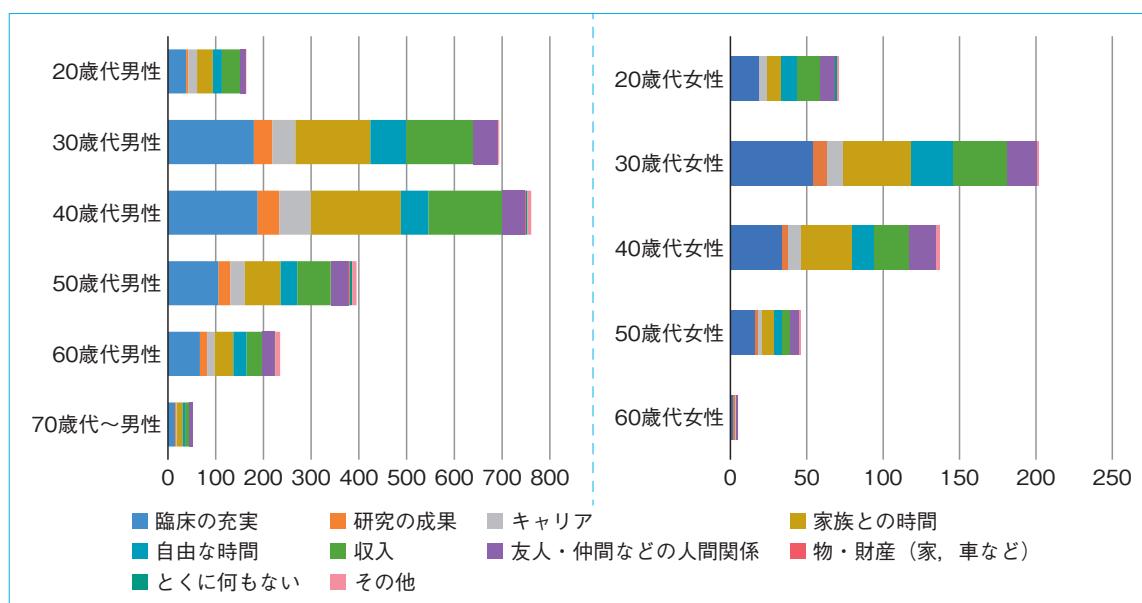
男性ではすべての年代で「ちょうどよい」が「キツイ」を上回ったが、女性では50歳代で両者が同数であった。各年代とも「物足りない」の回答が少數ずつあった。

Q8 仕事がキツくても続ける理由（複数回答）

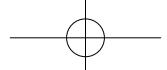


仕事がキツくても続ける理由としては、全般的に「救急ならではの病態やその急変対応に醍醐味を感じる」という回答が多かったが、男性では40歳代以降で「使命感をもっている」がほぼ同数か、やや上回る結果となった。

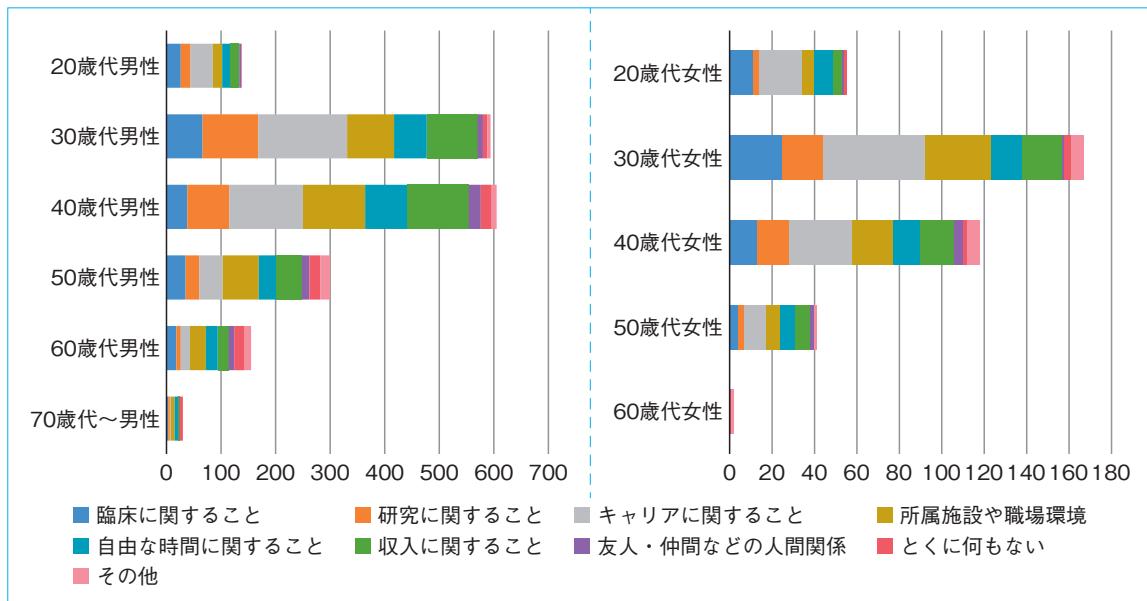
Q9 仕事で大切にしたいこと/していること（複数回答）



仕事で大切にしたいこと/していることについては、男女とも各年代で「臨床の充実」「家族との時間」が多くかった。「研究の成果」「キャリア」という回答は比較的少なかった。

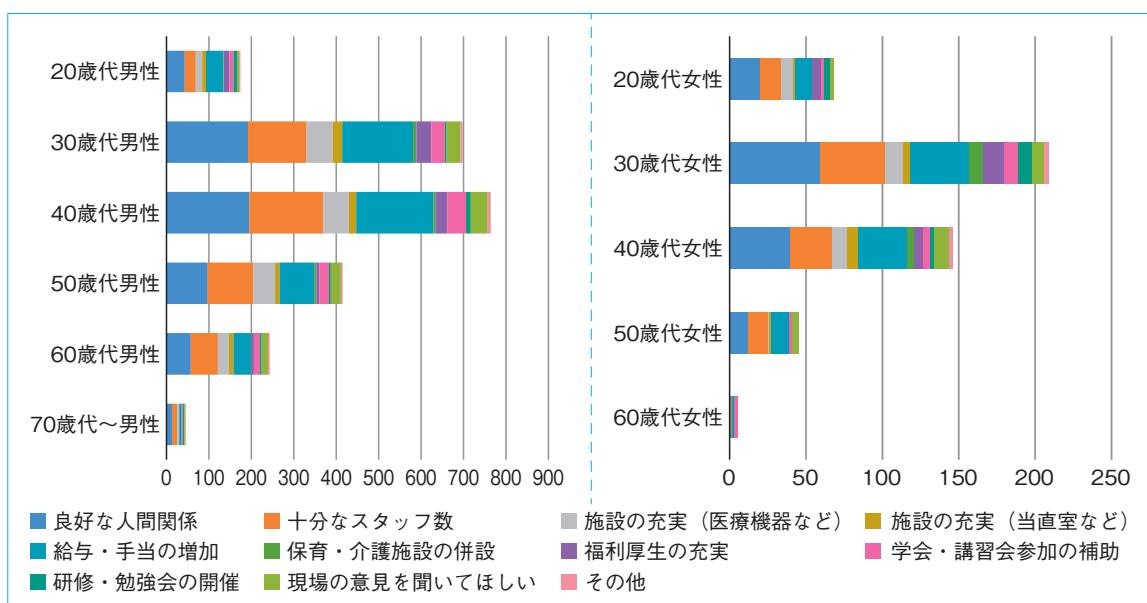


Q10 今悩んでいること（複数回答）



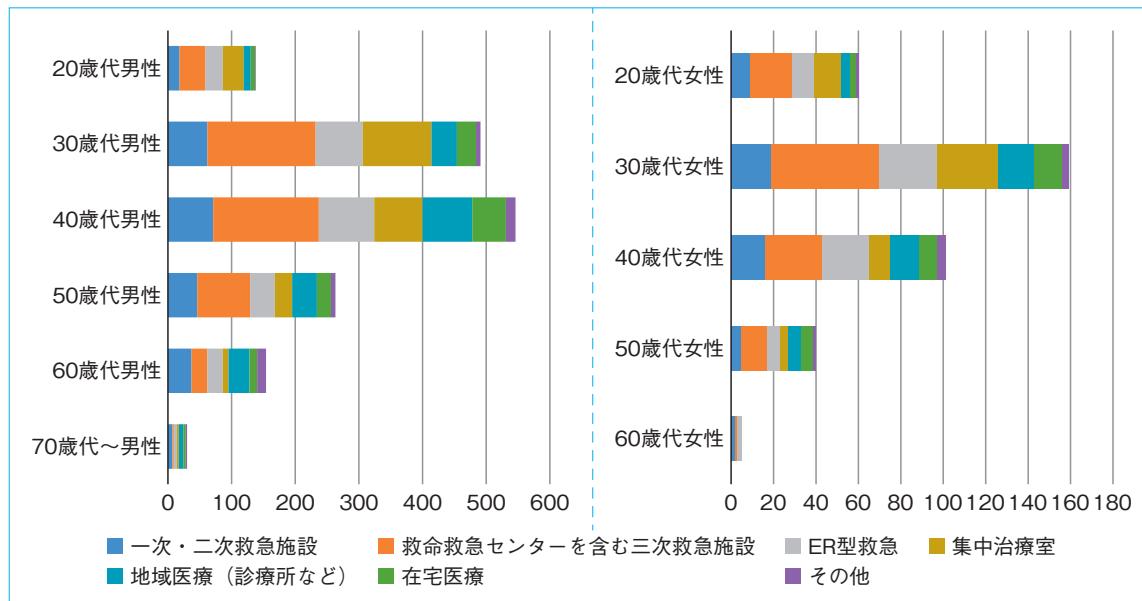
今悩んでいることでは、男女とも「キャリアに関すること」「所属施設や職場環境」が多かったが、男性では30～50歳代で「収入に関すること」、女性では20～30歳代で「臨床に関すること」が多い傾向にあった。

Q11 職場に求めるここと（複数回答）



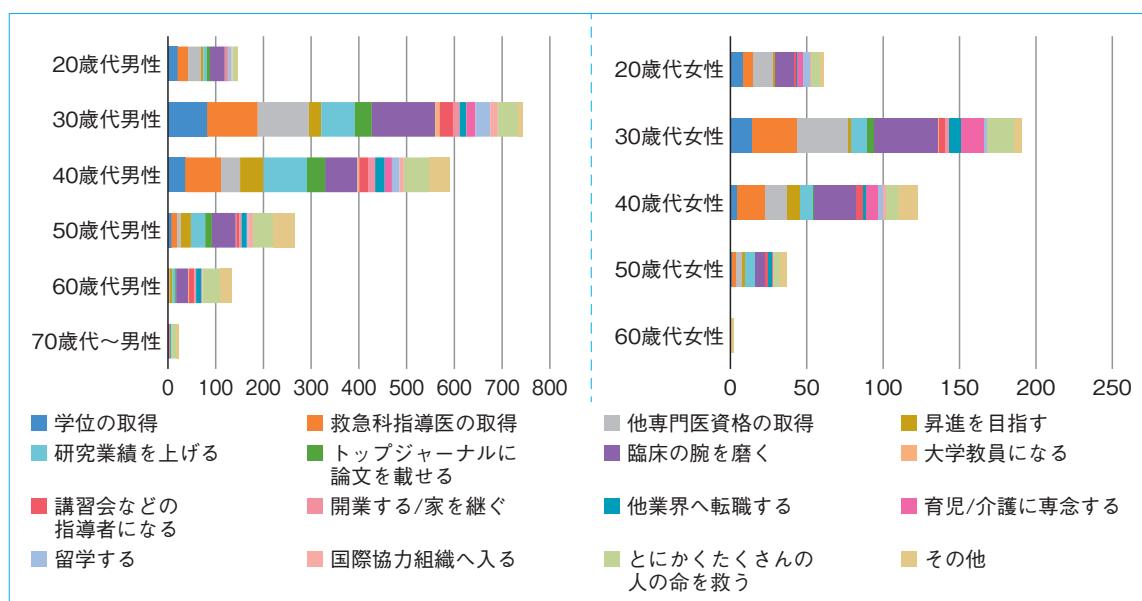
職場に求めるこことしては、男女とも各年代で「良好な人間関係」「十分なスタッフ数」「給与・手当の増加」が多かった。

Q12 今後働きたい/働きつづけたい施設・環境（複数回答）

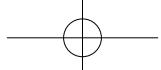


今後働きたい/働きつづけたい施設・環境については、男女とも20～50歳代で「救命救急センターを含む三次医療施設」が多かった。また、各年代で「地域医療（診療所）」「在宅医療」という回答もみられた。

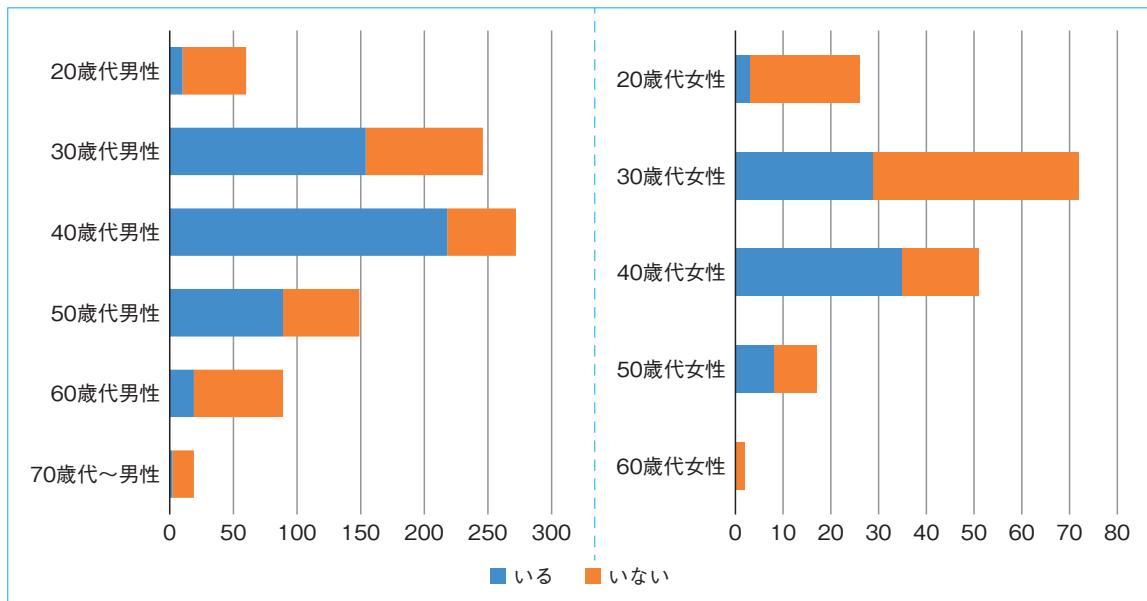
Q13 今後の目標や予定（複数回答）



今後の目標や予定については、男女とも「臨床の腕を磨く」という回答が多かった。また、主に30～50歳代の男女で「研究業績を上げる」との回答が目立つが、「トップジャーナルに論文を載せる」に関しては、女性で少ない傾向にあった。

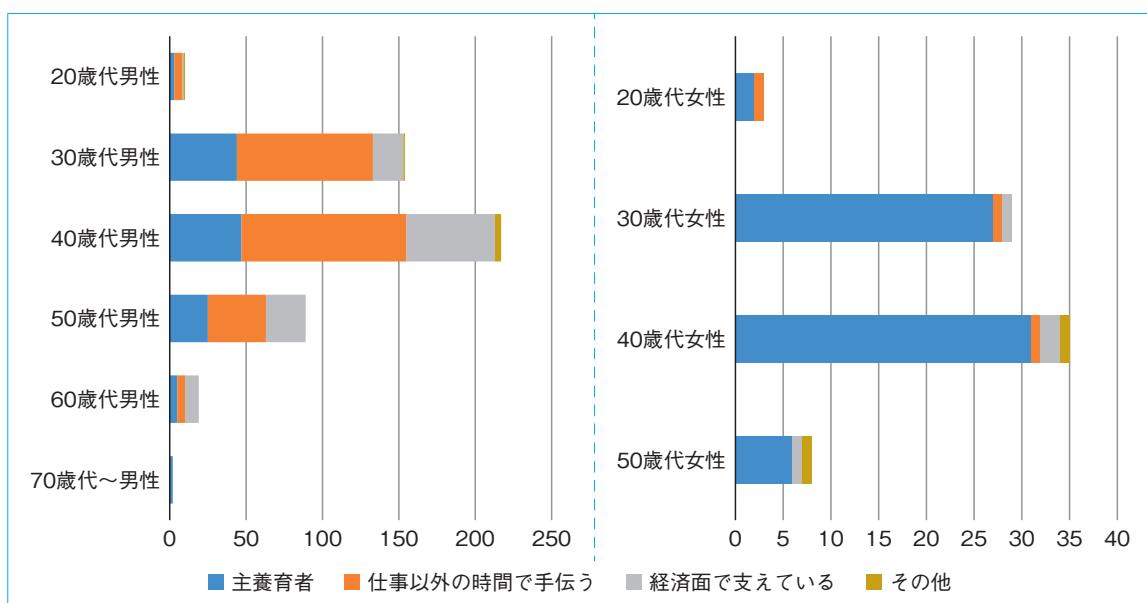


Q14 家族に要養育者はいるか



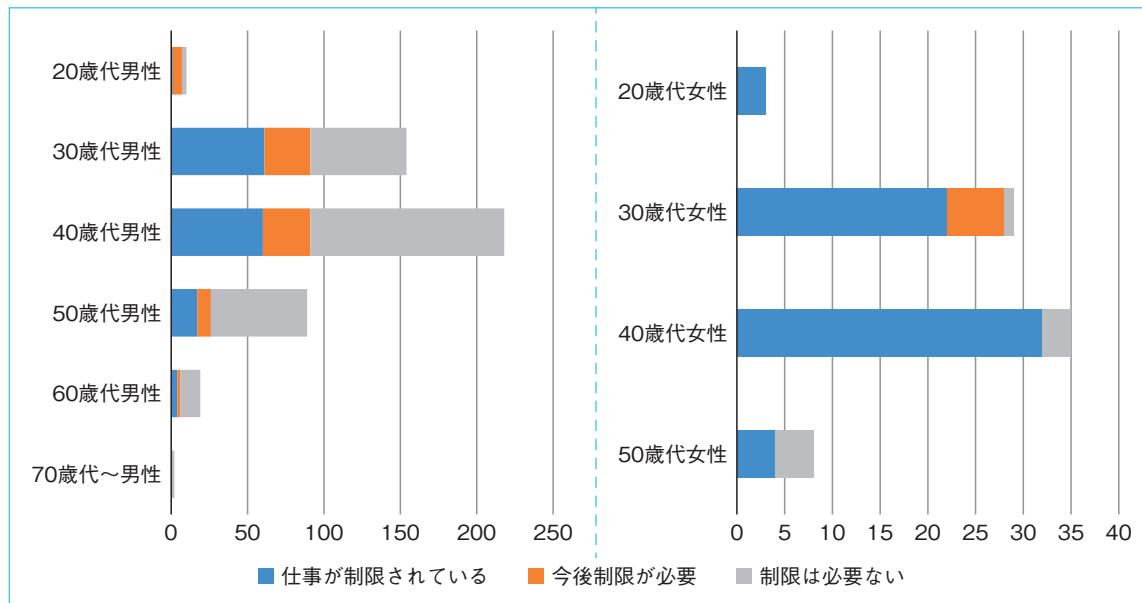
要養育者の有無については、男性30～50歳代の半数以上が「いる」と回答した一方、女性で「いる」と回答した割合は男性に比べやや少ない結果であった。

Q15 育児における役割



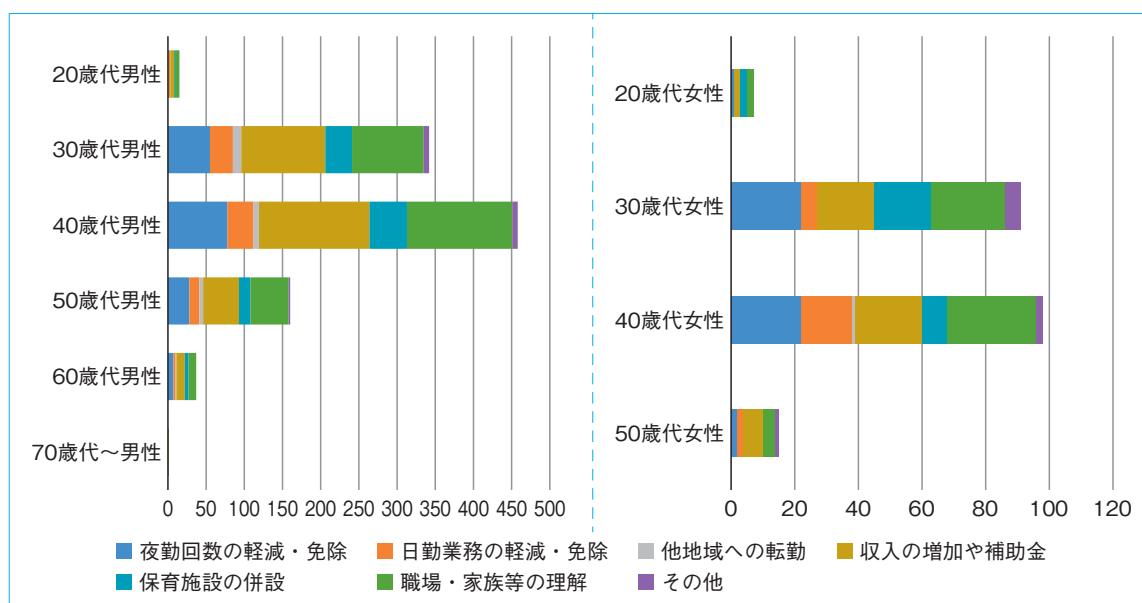
育児における役割では顕著な違いがみられた。女性は多くが「主養育者」であるのに対し、男性は「仕事以外の時間で手伝う」「経済面で支えている」が多かった。

Q16 育児による仕事への影響

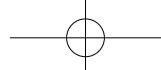


育児による仕事への影響は、男性では「制限は必要ない」との回答が半数以上を占める一方、女性では「仕事が制限されている」との回答が多かった。20歳代女性では全員が「仕事が制限されている」と回答した。

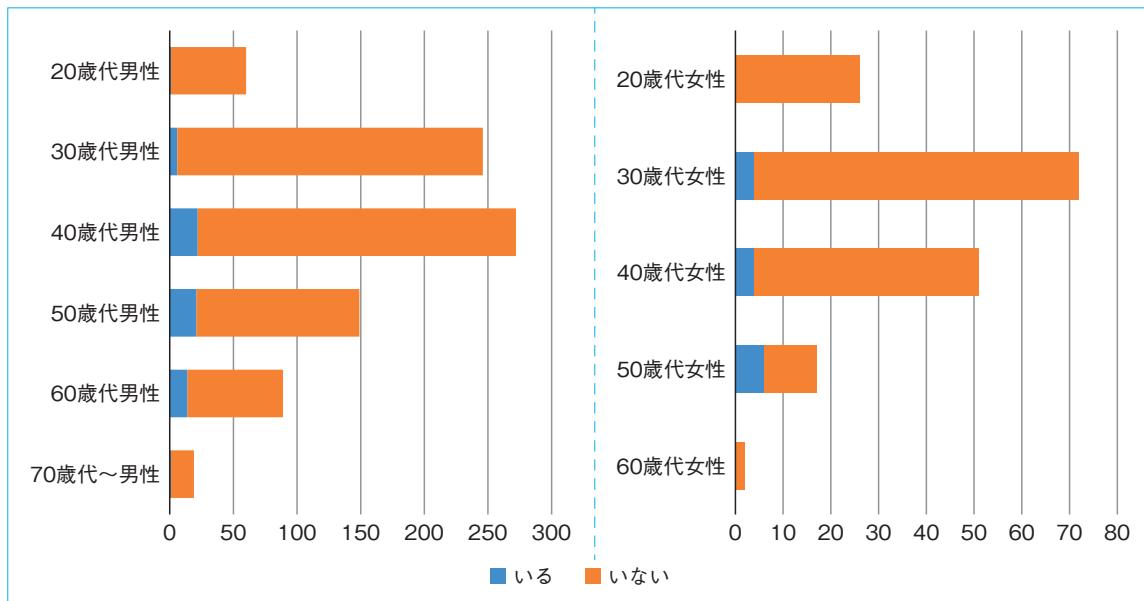
Q17 育児のために望むこと（複数回答）



育児のために望むこととしては、男女とも「夜勤回数の軽減・免除」「収入の増加や補助金」「職場・家族等の理解」との回答が多かった。

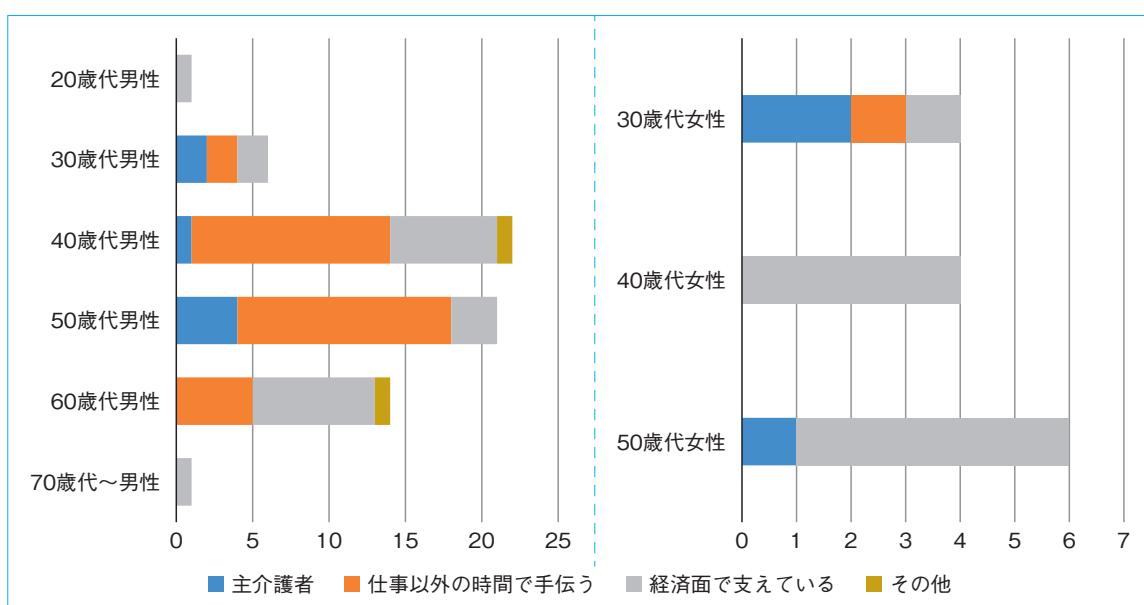


Q18 家族に要介護者はいるか



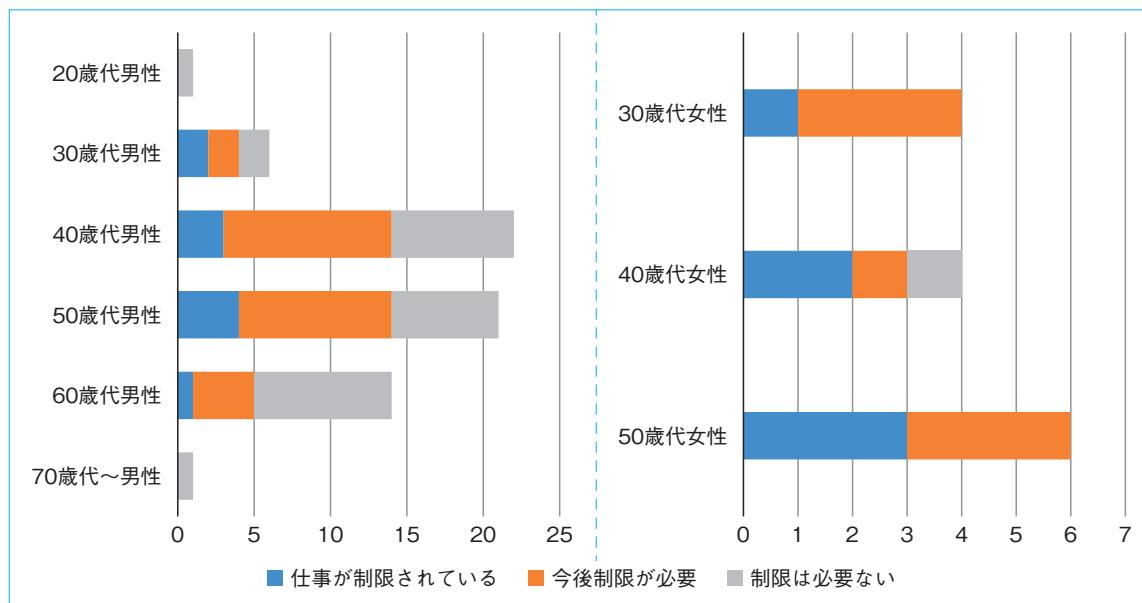
要介護者の有無については、男女とも年代が上がるにつれ「いる」の回答割合が増えている。

Q19 介護における役割



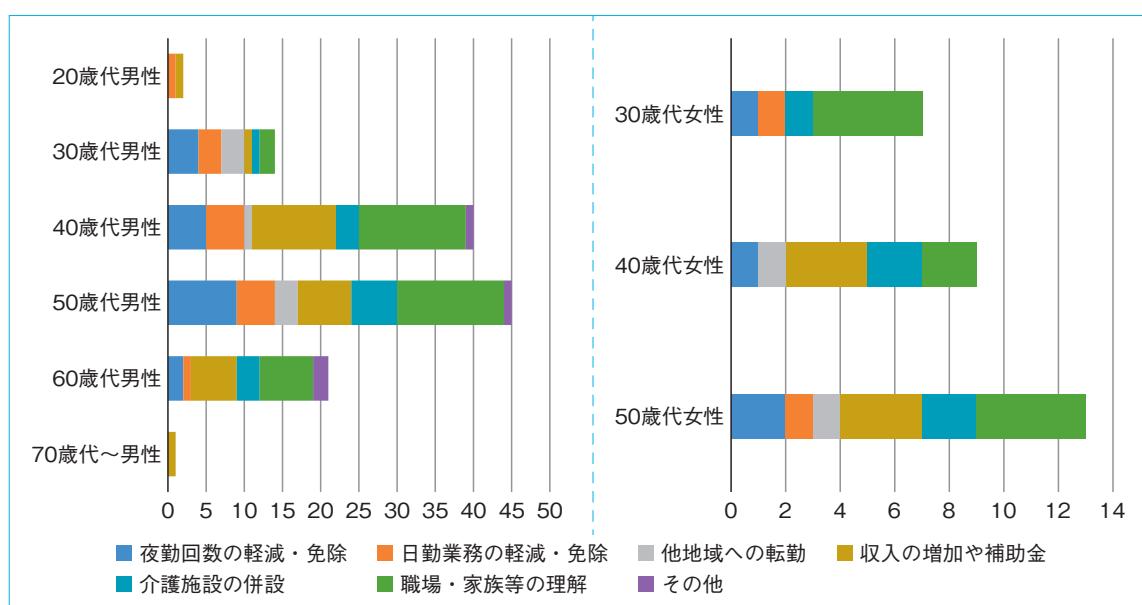
介護における役割については、男性の40・50歳代で「仕事以外の時間で手伝う」の回答が多く、女性の40・50歳代では「経済面で支えている」との回答が多い結果となった。

Q20 介護による仕事への影響



介護による仕事への影響では、男女とも30～50歳代で「仕事が制限されている」「今後制限が必要」の回答が増えている。

Q21 介護のために望むこと



介護のために望むことについては、男女ともに「夜勤回数の軽減」「職場・家族等の理解」「収入の増加や補助金」の回答が多い結果となった。